

巻頭言(紀要第4号の発刊によせて)

島根職業能力開発短期大学校は、平成5年4月に島根県江津市に開校以来、26年の歳月が経過しました、この間、県、市、地域団体等の関係機関、企業の皆様及び学校関係者の方々をはじめとした各方面の多くの方々のご支援のもと、地域のものづくり人材育成の拠点として活動してこられたことは、教職員一同、誠に喜びに堪えないところであります。

昨今のもものづくり産業社会における労働生産人口の減少に対して、人材活用の制度的な対策に加え、第四次産業革命に代表されるIoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの活用が注目されています。一方、こうした先進ツールにより、コモディティ化がますます進む中、産業界で働く人材に期待されるスキルも大きく変化してくことが予想されます。

当校では、そうした技術革新による変化に柔軟に対応できる、専門的な知識を学び応用する技術、技術を実際の形にする技能を兼ね備えた実践技術者を育成しています。

今回発刊の紀要は、主に平成30年度の教育訓練の活動の記録を記載しており、学生を交えての講師陣の専門分野に関する研究、授業の中での実践的な課題及び総合制作実習などがあります。

これらの活動は、講師陣自身の創造力、発想力を豊かにするだけでなく、学生にとっても、限られた授業時間の中で試行錯誤を通して完成させたもので、問題解決力や思考力などを身につける良い機会となりました。紀要第4号はこのような活動を日頃から記録にとどめ、常に現場の問題に直面し、今後どのように向かい合っていくべきなのかなど、日々問題意識を持って取り組んでいる講師陣の教育方法や専門技術に係る研究成果について、地域の企業や事業主団体等の方々に十分ご理解していただくことを目的に編纂したものです。

本報告内容が一人でも多くの方々に読まれ、教育訓練の向上から発展のため、地域社会及び産業に貢献するため、また各自の飛躍の糧となるよう関係各位からの忌憚のないご意見・ご批評を頂ければ幸甚に存じます。

最後に当校は地域に根差し、地域に愛され、地域に貢献する大学校をめざしてたゆまぬ研鑽をしていく所存でございますので、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしく申し上げます。

2019年9月30日

島根職業能力開発短期大学校

校長 畑 英明